

□議員名：吉永美子

1 東日本大震災を始めとする被災地への支援について

論点	一年前、コロナが終息した際には、仙台天文館作成の東日本大震災関連のプラネタリウム番組の映写を青年の家のプラネタリウムで行ってはどうかと提案した。その際の答弁を踏まえ、検討状況を聞く。
回答	昨年、被災地の天文館の成果としてしっかり受け止め、関係部署に投げかけ、関係者と協議をしようと思っていたが、コロナ禍で、なかなか調整が思うようにいかなかった。来年度へ向けて、引き続き映写ができるように協議を進めていきたいと考えている。

論点	山口市の川西中学校で石巻市の被災者が講演するオンライン授業が行われたとの報道があった。防災教育にもなり、被災者と心を通わすという意味からも、オンラインを進める本市でも開催できないか。
回答	議員指摘のとおり、児童生徒の防災意識及び学習や訓練の効果を高めるためには、実際に被災した方の生の声を聞くことは児童生徒の心に印象深く刻まれ、大変効果的であると考え。有効な指導法の一つとして学校にも周知していく。

2 藤田市長の公約について

論点	来月、任期を満了し2期目の挑戦をする藤田市長に対し、4年間、公約の実現にどう努力をしてきたのか、検証を聞く。
回答	1つ目に「市民一人一人が主役の市政に」を掲げ、人と人とのつながりを大切にしながら、まちづくりの機運を高めてきている。2つ目の「まちの魅力・財産をフルに生かした市政に」について、山口東京理科大学の大きな成長、県立サッカー交流公園の多目的な市民の交流拠点化、小野田・楠企業団地の企業進出、LABVの手法を活用した商工センターの再整備を進めている。3つ目の「未来を担う子供たちのために」について、スマイルキッズのオープン、学校給食センターの完成や他市に先駆けての小中学校へのエアコン設置、GIGAスクール構想として1人1台のタブレット型端末を整備した。4つ目の「チームワークで輝く市政」について、全職員を対象としたランチミーティング、全課長に対しての課長ミーティングも実施した。5つ目の「夢を持ち続け、生き生き

	と安心して暮らせるまち」について、様々なまちづくりの種をまいてきており、おおむね順調に育っているのではないかと感じている。
--	---

論点	次期市長選挙に向け掲げる公約について聞く。
回答	アフターコロナを踏まえ、中長期的な視野に立ち、今、何が必要かということの中で、地域を創る、ひとを創る、まちの価値を創るという3つの創るということを重点的に進めていきたい。

3 新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金について

論点	第1次補正予算及び第2次補正予算による、新型コロナウイルス対応地方臨時交付金の成果の検証を聞く。
回答	感染症対策、市民生活や事業者の支援のほか、アフターコロナを見据えたデジタル化の推進などに取り組んできた。事業の進捗状況は概ね順調であり、令和3年度に取り組むべき事業を検討するためにも、今年度実施した事業について検証作業を行ったところである。

論点	国においては、新型コロナ対応に奔走する地方公共団体の取組を支援するため、第3次補正予算においても地方創生臨時交付金を確保したが、活用について考えを聞く。
回答	本市には約2億7,000万円を上限とする配分が決定した。引き続き、感染症対策を充実させるほか、飲食店を中心に厳しい状況が続く事業者の支援や困窮する市民の支援、コロナ後の社会情勢の大きな変化を見据えたデジタル化や移住・定住の推進に取り組みたい。

4 子育て支援について

論点	スマイルキッズの中に子育て世代包括支援センター「ココシエ」が設置され、保健師による、妊娠期から出産、育児期まで、きめ細かな相談支援が行われているが、体制強化について考えを聞く。
回答	専任職を置くことによって国が財政支援をするということになっているが、そのためには、かなりスキルの高い専門職が必要であると考えているので、子育て支援を支える中で、今後の課題としたい。

論点	国が行う不妊治療や不育症検査への助成拡充について、市の対応を聞く。
回答	国と県の事業であり、市は窓口として、申請を受け付け、県に進達するという役割分担がなされている。市の対応として、いかに多くの方に周知していくのかということが大切ではないかと考える。

5 ガラスのブランド化推進事業について

論点	昨年3月議会の一般質問での答弁を踏まえ、令和2年度の業務について実施状況を聞く。
回答	1年目の事業の完了に向けて、委託業者である株式会社マインドシェアが、きららガラス未来館の指定管理者の小野田ガラス株式会社との協議、市内の関係団体等で組織されたガラスのブランド化推進協議会で意見を聞き、マーケティング調査や飲食関係者等の意見の聴取を行っている。3月末の完成に向けて、鋭意取組を進めている。

論点	委託業者の選定に当たって、どういう実績があるということで特定することになったのか。
回答	新規事業開発や商品開発などの商業マーケット事業を展開するとともに、そのノウハウを生かした地域活性化支援事業を手掛けている会社で、強みとしては、調査・計画策定から商品開発、事業開発、販路開拓まで一貫して支援ができる会社である。

論点	ガラスのブランド化を進めるためには、市民とともに進めていくことが必要と考える。今後、市民をどのように巻き込んでいくのか。
回答	きららガラス未来館の来館者に対しアンケート調査、市内の飲食店関係に対してブランディング試作品に関する意見を調査していただく場を設ける予定としている。2年目、3年目の事業委託については、再度プロポーザルを行うことになったが、その中で今後、市民にどう関わるかを市民にお知らせすることもできると思っている。